

# 観光客の効用を高める要因と旅行先に選択する理由の分析 —なぜ観光客は徳之島を訪れるのか—

What Is a Reason of Visits to Tokunoshima Island?

A Factor Analysis on the Utility Increasing and Site Choice Behavior

○亀崎萌衣\*  
May Kamezaki

## 1. はじめに

2021年に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に認定された。当該地域は2017年に世界自然遺産候補として推薦されていたものの、2018年にIUCNから登録延期の勧告を受け、2019年に再推薦されたという経緯がある。

本研究が調査対象地とした徳之島は、鹿児島県の奄美群島に位置しており、同世界遺産地域における他の3島と比較して観光に関する議論や開発が進められていないという特徴がある。観光や自然保護に関して今後どのような方針が望ましいのかという論点は、島内の生活を左右する重要課題である。観光利用と環境保全のバランスについて議論した問題の発生を未然に防ぐためには、徳之島に対する人々の価値評価を客観的に把握しておくことが重要であるが、徳之島に関する価値評価を行った事例は見当たらなかった。

そこで本研究では、世界自然遺産登録前の徳之島を対象に、徳之島の価値を決定する要因を把握するため、まず徳之島を単独訪問した観光客と奄美群島内のアイランドホッピング（※1）により徳之島を訪れた観光客との効用差の要因を分析した。次に徳之島を繰り返し訪問する観光客と、徳之島を繰り返し訪問している人のうち徳之島のみ訪問した観光客との選択の違いに影響する要因を分析した。奄美群島や沖縄諸島など徳之島周辺には多くの島がある。なぜ観光客は徳之島を訪れるのか、そして奄美群島に数多くある離島の中からなぜ徳之島が旅行先に選ばれるのか、その理由を解明することで徳之島の価値要因を識別することで、今後の議論に役立てることができる。

※1 アイランドホッピングとは、旅程の中で隣接する複数の島を訪問する観光様式である。

## 2. 分析方法

本研究では、顕示選好を把握するためアンケート調査を実施した。調査期間は2019年8月16日から8月28日までとし、観光客の多くが利用すると考えられる徳之島島内の13ヶ所の宿泊施設に計600部のアンケートを配布して留め置き調査法により実施した。アンケート600通を配布し、144通を回収した。さらに、回収された144のアンケート票のう

---

\* 京都大学 農学研究科 博士後期課程  
〒606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町 E-mail: kamezaki.may.24r@st.kyoto-u.ac.jp

ち、居住地（都道府県名）を記入していないもの、観光以外の目的（帰省・仕事・出張・研修・撮影）で来島したと回答したもの、過去に居住経験があるもしくは親族が島内居住者であると回答したもの、居住地もしくは来島目的に関する回答内容が不明瞭であるもの、のいずれか1つでも当てはまったものは分析の対象から外したものを分析の対象とした。

ロジットモデルにより以下の2つの観点から分析を行った（表1）。

（1）徳之島を単独訪問した観光客と奄美群島内のアイランドホッピングにより徳之島を訪れた観光客との効用の違いを生む要因を調べるため、「徳之島を単独で訪れる人は、徳之島に大きな効用を見出しており、奄美群島の他の島々のついでに訪れる場合よりも満足度が高い」と仮定してデータを分析した。

（2）徳之島を繰り返し訪問する観光客と、徳之島を繰り返し訪問している人のうち徳之島のみ訪問した観光客との選択の違いに影響している要因を調べるため、「徳之島を複数回（または単独で）訪れる人は、徳之島に別の島には無い大きな効用を見出しており、他の島々のついでに訪れる場合よりも満足度が高い」と仮定してデータを分析した。

表 1 分析モデルの概要

		被説明変数	説明変数
(1)	Model 1	徳之島のみ訪問	訪問目的、移動時間、滞在費用、交通費、居住地域別平均賃金、年齢、性別、世界遺産登録推進の認知、職業別可処分所得
	Model 2	アイランドホッピング	
(2)	Model 3	徳之島を繰り返し訪問	職業別可処分所得
	Model 4	徳之島のみを繰り返し訪問	

### 3. 分析結果

4つのモデルを分析した結果、以下の分析結果を得た。

（1）訪問先への所要時間が長いほど効用を下げる。また、エコツアーをはじめとする訪問目的は効用に影響を与えているとは言えなかった。

（2）徳之島に複数回訪れることの効用は年齢が上がるごとに増加し、また世界遺産登録申請していることを知っている人ほど高い。ただし、徳之島のみを複数回訪問する人に着目すると、世界自然遺産登録申請は効用に影響しているとは言えない。

### 4. 結論

訪問先への所要時間が長くなる点は先行研究に倣う結果となった。また、徳之島を含む当該地域を複数回訪れる人は世界自然遺産登録が効用に影響していた一方、徳之島のみを複数回訪問する人は世界自然遺産登録以外の要素に価値を感じている可能性が高いことが示唆された。さらに徳之島ではエコツアーが推進されつつあるが、エコツアーは効用に影響しているとは言えず、今後エコツアーを軸に利用と保全の両立を図るのであれば、観光客に対してエコツアーの周知をはかる等の対策が必要不可欠であると考えられる。